

半世紀を経て都市再生にこめたメッセージ

世界的彫刻家
流政之の

住 塚

SUMIZUKA

都市機構プロデュース——コンフォール東鳩ヶ谷

東鳩ヶ谷アートプロジェクト

—— 街に、ルネッサンス ——



都市機構

半世紀前、時代を先駆けた“団地”と“パブリック・アート”

① 当時の先進的住宅団地が 再び時代をリードする 住宅団地へ

1958年に建設されたこの東鳩ヶ谷団地は、中低層集合住宅で低層各戸に庭が配置されるという、当時としては理想的な住宅と住環境でした。しかし建設後約半世紀経ったいま、建物の老朽化がすすみ、生活水準の向上や居住者のニーズの変化もあって建替えることとなりました。

住宅の規模や間取り、設備、機能の向上とともにながい歳月をかけて熟成してきた緑の環境も、けやきや桜の大木の保存や移植により保全再生されます。



1958年に建設された東鳩ヶ谷団地



建替え後のコンフォール東鳩ヶ谷団地



保全されたけやきの大木

② 都市機構のパブリック・アートの先駆。その 歴史を継承し再び流政之の空間創造へ

都市機構の前身である日本住宅公団は、団地の共有の庭空間に地域の個性を表現し、住む人々の心の風景を形づくるパブリック・アートの重要性を早くから提唱しました。いち早く実践を試みたのがこの東鳩ヶ谷団地です。これは山口県宇部市をはじめとして全国的にひろがった当時の文化行政「彫刻のあるまちづくり」の先駆的な一例ともなったのです。

コンフォール東鳩ヶ谷は、都市機構のパブリック・アートの先駆けともなった流政之さんのデザインによるアートの再生と、都市再生へのメッセージをこめた新しい彫刻作品の設置を建替事業のテーマにかかげました。

流政之デザインによる ダイナミックなアート

東鳩ヶ谷団地の庭空間には、後に世界的な彫刻家となる流政之さん(当時35歳)のスケッチから生まれた、テーブル スツール ベンチ 水飲み 灯籠などが設置されていました、日本の風土に根ざした明快な思想が素朴で力強い造形により表現され、団地の暮らしに溶け込み、自然な存在感を醸成していたのです。

これらのうちテーブル スツールを流さん自ら石彫としてリメイクし新しい場所に移して再生するとともに、新たな作品「住塚(SUMIZUKA)」を加えて“アートのあるコンフォール東鳩ヶ谷”として、未来に向けて継承していくこととなりました。

流政之さんのスケッチから生まれたアート(建替前)



ベンチ



ベンチ



ベンチ



灯籠



水飲み



テーブル スツール

世界的な彫刻家 流政之と都市機構



世界的に高く評価されている流政之の創造哲学は、美術館のためだけの彫刻ではなく、広大な空間にあって人びとに感動と力を与え、まちおこしの起爆剤となる彫刻です。

1958年、都市機構(当時 日本住宅公団)のまちづくりに共鳴して以来約半世紀、同じこの東鳩ヶ谷に流政之の世界が甦りました。

流政之は、長崎に生まれ、東京・京都で育ち、作刀や研ぎを習得、第二次大戦時は海軍予備学生としてゼロ戦の搭乗員という異色の経歴を持つ彫刻家です。

「サムライアーティスト」としてアメリカを中心に世界的に活躍、タイム誌によって川端康成、三島由紀夫、黒澤明と並んで日本を代表する文化人として紹介されました。

ニューヨークのワールドトレードセンターに置かれた「雲の砦」が9.11のテロ事件のあと、救助活動のため惜しくも撤去されたことも話題となりました。日本芸術大賞、吉田五十八賞を受賞、現在も香川県庵治町にスタジオを構え制作活動を行っています。



「ながれ地蔵」



ナガレスタジオ



「サキモリ」

流政之と都市機構

- 1955 日本住宅公団創立
第二次大戦の日米戦没パイロット追悼のために「飛行空間」制作 初の個展開催 著名アメリカ人に評価される
- 1956 ながれ地蔵制作 石との出会い「割れ肌」技法を開眼
- 1958 公団 東鳩ヶ谷団地に流政之スケッチによるアートを導入
- 1960 彫刻「受」がニューヨーク近代美術館蔵となる
日本のパブリック・アートの創始期
- 1962 ロックフェラー夫人 マルセル・ブロイヤーらの招きで渡米
- 1963 ニューヨーク世界博 日本館に壁彫「ストーン・クレージー」制作
- 1966 香川県庵治村にスタジオを建設 以後「パチ」「サキモリ」シリーズなどで、国際的に活動
- 1975 7年をかけニューヨーク・ワールドトレードセンターに250トンの彫刻「雲の砦」を完成
「はじめての大空間を鎮めるに足る彫刻が出現」「どの作品も飛翔の衝動を秘めつつ、深々としずまり、重量感を持ちつつも、どれもが無重力の世界を夢見ているようだ」— 司馬遼太郎
- 2001 9.11テロにより ニューヨーク・ワールドトレードセンターの「雲の砦」は人命救助のため撤去
- 2004 北海道立近代美術館でNANMOSA NAGARE展(第2会場 流山温泉 彫刻公園ストーン・クレージーの森、第3会場 奥尻島 彫刻公園北追岬)開催。
「雲の砦」はテロに耐え雲のようにはかなく消えたが、人々の心の中に生き続け「雲の砦」r.として北海道立近代美術館で甦る。
都市機構による東鳩ヶ谷団地建替事業において都市再生にこめたメッセージとして新作「住塚」を提唱
- 2005 半世紀を経て 都市機構の理念と流政之の創造哲学の原点に戻り「住塚(SUMIZUKA)」他完成



撤去された「雲の砦」 ニューヨーク・ワールドトレードセンター

流政之制作の「住塚(SUMIZUKA)」設置 生まれ変わる コンフォール東鳩ヶ谷のアート空間

「住塚(SUMIZUKA)」とは

東鳩ヶ谷団地の建替えにあたって、アートをテーマとしてコミュニティや地域資源の継承を図りたいという都市機構の構想に共鳴して、新たに流政之ならではのコンセプトで「住塚(SUMIZUKA)」が発想されました。

この地に暮らし続けた人々の記憶と歴史を凝縮し、心のふるさとして流政之自ら製作する石の彫刻とともに永遠に残していこうというものです。

「住塚」には住民の思い出の品、心をこめた文章、時代を示す生活用具・住宅建具などがおさめられ、半世紀に及ぶ生活史が未来へ伝承されていくことでしょう。



「住塚(SUMIZUKA)」

都市機構とすすめた準備

平成15年9月：コンセプト提示

平成16年9月：イメージ案提示

平成16年9月～17年3月：制作

平成17年4月23日：除幕式



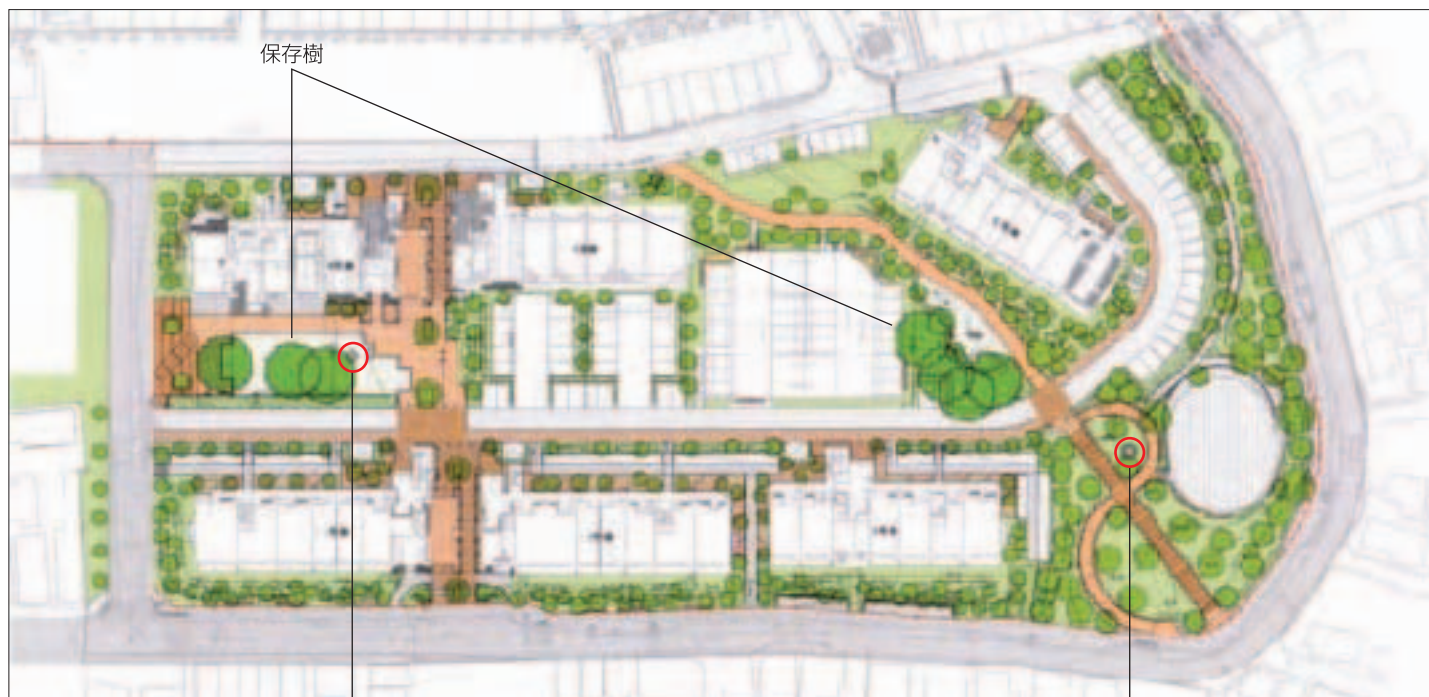
現地での打合わせ(平成17年3月23日)



思い出の品埋蔵セレモニー(平成17年4月10日)



半世紀を経てリメイクされた「テーブル スツール」



リメイクアート(テーブル スツール)

「住塚(SUMIZUKA)」

都市機構のパブリック・アート



1958 無題 (テーブル 腰掛)



2005 住塚



2003 記憶の風景とコンチェルト・エンジェル



2003 ムーブメントNo.3



2003 ダブル・インバージョン



1977 記念広場



1983 待ちぼうけ広場



1987 大地の女神の胎内



1988 光の庭



1989 風



1994 会話



1994 見知らぬ人



1995 Pleiades



2001 ウィッシュ・トランスミッター ※3



1998 WORK-N ※2



1966 ねじりハチマキ



1998 25のポリティコ・色彩の繁栄



1955 LOVE



1994 ブリーフケースを持った男 ※1

作者	設置	地区：作品名
流 政之	1958	東鳩ヶ谷：無題 (ファニチャー群をデザイン)
中島 修	1969	百草：石のオブジェ
高瀬 昭男	1977	北砂五丁目：記念広場
関根 伸夫	1983	待ちぼうけ広場：金沢シーサイドタウン
小口 一也	1986	光が丘パークタウン：FAMILY
クロード・ライール	1987	若松二丁目：大地の女神の胎内
菊竹 清文	1988	大川端リバーシティ21：光の庭
岡本 敦夫		多摩NTリベレ向陽台：女 男
永原 浄	1989	リバーピア吾妻橋：風
中村 嘉男	1990	ちはら台：ふれあい
N・ド・サンファル	1994	ファーレ立川：会話
J・ボロフスキー		ブリーフケースを持った男
S・J・アクバン 他89名		見知らぬ人 他
ロイ・リキテンシュタイン	1995	新宿アイランド：Large Wave
長沢 英俊 他7名		Pleiades
ロバート・インディアナ		LOVE 他
D・ビュレンニュ	1996	シーリアお台場：25のポリティコ・色彩の繁栄
福田 繁雄		あ・ん
樋口 正一郎		ねじりハチマキ
グラス・O・フリーマン	1997	パルロード赤羽：七福神
三島 喜美代 他17名	1998	HAT神戸：WORK-N 他
水田 勢二 他26名及び市民	1999	ビューコート住吉館他：神戸住吉 交友プラザ ハート・アート計画
ジョゼ・ド・ギマラインシュ	2000	プラザシティ立川：幸福の木 他
アン・グラハム	2001	アートアベニュー立川：ウィッシュ・トランスミッター 他
団塚 栄喜 他4名	2002	大泉学園ゆめりあ：空からのメッセージ 他
カッペッレ・スル・ターヴォ	2003	横浜アイランドタワー：運動と瞑想の必要性
アニッシュ・カプーア		ミューザ川崎：ダブル・インバージョン
フロリアン・クラール		ムーブメントNo.3
土屋 公雄		記憶の風景
鴻池 朋子 他3名		コンチェルトエンジェル 他
城戸 真亜子	2004	リバーハープコート南千住：ハービー 他
流 政之	2005	コンフォール東鳩ヶ谷：住塚(SUMIZUKA) 他

※1◎Anzai ※2◎成田 弘 ※3◎戸田 勝

独立行政法人 都市再生機構

www.ur-net.go.jp/

本社 技術・コスト管理室 〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町六丁目50番地1横浜アイランドタワー15F TEL.045-650-0659
埼玉地域支社 〒336-0027 埼玉県さいたま市南区沼影1-10-1ラムザタワーA棟 TEL.048-844-2000